

特別栽培米ひとめぼれ「米づくり農家の自信作」栽培暦（H30）

月	4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月																																													
旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬																																													
生育 ステージ	おいしい自信作 目標値 ◎食味値80点 以上		播種期			移植期 6/1～6/10			有効分げつ終止期 最高分げつ期			出穂期 8/5～15			成熟期																																																
水管理			※除草剤散布3～4日間は、湛水を保ち、7日間は止水する。			浅水			間断灌水			中干し			湛水管理（ため込まない）			間断灌水			落水 （収穫前7～10日）																																										
施肥	施肥体系（化学肥料由来の窒素成分は有機質肥料由来の半分以下になるように）																																																														
	元肥 パターン		肥料名			成分（%）			施用量 （kg/10a）	化学肥料 由来 N成分量	有機質肥 料由来 N成分量	防除計画（移植栽培・無人ヘリの場合）																																																			
①		発酵鶏糞又は、 果穂里スペシャル プラス LPS100			3.53 7 40			2.80 3 0			3.34 1 0			200 40～60 6.4～8		3.53 2.8～4.2 0	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>薬剤名</th> <th>成分数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種子消毒</td> <td>温湯消毒</td> <td>0</td> <td>（直播：カルバ―粉粒剤 16、1成分）</td> </tr> <tr> <td>箱施用剤</td> <td>スタウトダントツ箱粒剤</td> <td>2</td> <td>クロチアニン・イソチアニル粒剤 直播はアトマイヤー水和 剤（1成分）</td> </tr> <tr> <td>除草剤</td> <td>ガンガン1キロ粒剤</td> <td>2</td> <td>フェノキサスルホン・ピリミスルファン 移植、直播登録あり</td> </tr> <tr> <td>本田防除</td> <td>ビームエイトスタークルゾル</td> <td>2</td> <td>ジノテフラン、トリシクラゾール 穂揃期</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td colspan="3">6成分</td> <td colspan="3"></td> <td colspan="3"></td> <td colspan="3"></td> <td colspan="3"></td> </tr> </tbody> </table>								薬剤名	成分数	備考	種子消毒	温湯消毒	0	（直播：カルバ―粉粒剤 16、1成分）	箱施用剤	スタウトダントツ箱粒剤	2	クロチアニン・イソチアニル粒剤 直播はアトマイヤー水和 剤（1成分）	除草剤	ガンガン1キロ粒剤	2	フェノキサスルホン・ピリミスルファン 移植、直播登録あり	本田防除	ビームエイトスタークルゾル	2	ジノテフラン、トリシクラゾール 穂揃期	合計		6成分																	
	薬剤名	成分数	備考																																																												
種子消毒	温湯消毒	0	（直播：カルバ―粉粒剤 16、1成分）																																																												
箱施用剤	スタウトダントツ箱粒剤	2	クロチアニン・イソチアニル粒剤 直播はアトマイヤー水和 剤（1成分）																																																												
除草剤	ガンガン1キロ粒剤	2	フェノキサスルホン・ピリミスルファン 移植、直播登録あり																																																												
本田防除	ビームエイトスタークルゾル	2	ジノテフラン、トリシクラゾール 穂揃期																																																												
合計		6成分																																																													
②		発酵鶏糞 苗箱まかせ			3.53 2.80 3.34			200				2.56～3.2	3.53	※農薬成分は10成分以内になるように注意する。（特別栽培米基準） ※その他補完防除等を行う場合は、JAによく相談すること																																																	
栽培 管理	4月の管理		5月の管理			6月の管理			7月の管理			8月の管理			9月の管理			10月以降の管理																																													
	<ul style="list-style-type: none"> ●基肥 ・鶏糞は4月末～田植え2週間前頃に散布する ・果穂里スペシャルは田植の2週間前頃に散布する ・基肥としてカリを施用する場合は、珪酸加里を20kg/10aを田植前に施用する 		<ul style="list-style-type: none"> ●育苗 ・温湯消毒は60℃/10分で行う ・1箱当り150g（催芽糶）播きで健苗を育成する ●施肥 ・LPS100は入水前に散布しすぎ込んでおく（又は田植え同時） ●病虫害防除 ・移植前に箱施薬を実施 ●植え付け ・植付け本数は株当り3～5本、株数は㎡当り18株（坪60株）を目安とし、深植えを避ける ●水管理 ・浅水管理で分げつの確保に努める。 			<ul style="list-style-type: none"> ●水管理 ・田植え後1ヶ月を目安に間断灌水を開始 ・茎数が株当り18～20本程度になったら中干しを行う（強度の中干しは避ける） ●縞葉枯病（ヒメヒウカ）発生時 ●追肥 ・追肥としてカリを施用する場合（基肥に珪酸加里を施用しない場合は、塩化加里10kg/10aまたは珪酸加里20kg/10aを出穂40日前頃（6月下旬）に施用する。 			<ul style="list-style-type: none"> ●水管理 ・中干し後、再度間断灌水を継続し、出穂20日前（7月15日頃）から湛水管理を行う。 ●病虫害防除 ・カメムシ被害軽減のため、出穂2週間前（7月20日～25日頃）を目安に畦畔雑草を刈る。 ※穂ばらみ期（出穂前10日）を目安に、いもち、紋枯、ウンカ類の防除を実施（成分回数に留意）。 ●コブノメイガ多発時 			<ul style="list-style-type: none"> ●水管理 ・出穂20日後までは湛水管理を継続する ・落水は収穫前10日頃を目安とする。 ●病虫害防除 ・穂揃い期（8月中旬頃）に穂いもち、カメムシ、ウンカ類の基幹防除を実施する。 ●カメムシ多発時 			<ul style="list-style-type: none"> ●収穫 ・通常、出穂期から35～40日で収穫期となる。刈り遅れとならないよう、青味糶が10～15%程度になったら収穫を開始する 			<ul style="list-style-type: none"> ●収穫後の作業 ・収穫後は、土壌改良資材や堆肥を投入し、年内にほ場を耕起する ・排水不良田では、冬期間の滞水を防止するため、ほ場周囲に明きよを設ける 																																													
◎食味値向上のために、施肥量を加減しましょう。																																																															

特別栽培米きめむすめ「米づくり農家の自信作」栽培暦(H30)

月	4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月																																								
旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬																																								
生育 ステージ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> おいしい自信作 目標値 ◎食味値80点 以上 </div>		播種期			移植期 6/1~6/10			有効分げつ終止期 最高分げつ期			出穂期 8/18~22			成熟期																																											
水管理			※除草剤散布3~4日間は、湛水を保ち、7日間は止水する。			浅水			間断灌水			中干し			湛水管理(ため込まない)			間断灌水			落水 (収穫前7~10日)																																					
施肥	施肥体系 (化学肥料由来の窒素成分は4kg/10a以下になるように)																																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">元肥 パターン</th> <th rowspan="2">肥料名</th> <th colspan="3">成分(%)</th> <th rowspan="2">施用量 (kg/10a)</th> <th rowspan="2">化学肥料 由来 N成分量</th> <th rowspan="2">有機質肥 料由来 N成分量</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P</th> <th>K</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">①</td> <td>発酵鶏糞又は、 果穂里スペシャル</td> <td>3.53</td> <td>2.80</td> <td>3.34</td> <td>250</td> <td></td> <td>4.41</td> </tr> <tr> <td>プラス LPS100</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>60</td> <td></td> <td>4.20</td> </tr> <tr> <td></td> <td>40</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>9</td> <td>3.6</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>発酵鶏糞 苗箱まかせ</td> <td>3.53</td> <td>2.80</td> <td>3.34</td> <td>250</td> <td>3.6</td> <td>4.41</td> </tr> </tbody> </table>							元肥 パターン	肥料名	成分(%)			施用量 (kg/10a)	化学肥料 由来 N成分量	有機質肥 料由来 N成分量	N	P	K	①	発酵鶏糞又は、 果穂里スペシャル	3.53	2.80	3.34	250		4.41	プラス LPS100	7	3	1	60		4.20		40	0	0	9	3.6	0	②	発酵鶏糞 苗箱まかせ	3.53	2.80	3.34	250	3.6	4.41	防除計画 (移植栽培・無人ヘリの場合)									
元肥 パターン	肥料名	成分(%)			施用量 (kg/10a)	化学肥料 由来 N成分量	有機質肥 料由来 N成分量																																																			
		N	P	K																																																						
①	発酵鶏糞又は、 果穂里スペシャル	3.53	2.80	3.34	250		4.41																																																			
	プラス LPS100	7	3	1	60		4.20																																																			
		40	0	0	9	3.6	0																																																			
②	発酵鶏糞 苗箱まかせ	3.53	2.80	3.34	250	3.6	4.41																																																			
※発酵鶏糞は(肥効率 N:50%,P:80%,K:90%)で仮定しています。成分割合が大きく異なる製品を使う場合は事前にご相談ください。 ※「発酵鶏糞または果穂里」+化成肥料とし、化学肥料由来の窒素成分は有機質由来の半分以下となるよう注意する。苗箱まかせの場合、一箱当たりの窒素施用量を調整して施用する(LPコート N400)							<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>薬剤名</th> <th>成分数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種子消毒</td> <td>温湯消毒</td> <td>0</td> <td>(直播:カルバ—粉粒剤 16、1成分)</td> </tr> <tr> <td>箱施用剤</td> <td>スタウトダントツ箱粒剤</td> <td>2</td> <td>クロチアニジン・イソチアニル粒剤</td> </tr> <tr> <td>除草剤</td> <td>ガンガン1キロ粒剤</td> <td>2</td> <td>フェノキサスルホン・ピリミスルファン</td> </tr> <tr> <td>本田防除</td> <td>ビームエイトスタークルゾル</td> <td>2</td> <td>ジノテフラン、トリシクラゾール</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>6成分</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※農薬成分は10成分以内になるように注意する。(特別栽培米基準) ※その他補完防除等を行う場合は、JAによく相談すること												薬剤名	成分数	備考	種子消毒	温湯消毒	0	(直播:カルバ—粉粒剤 16、1成分)	箱施用剤	スタウトダントツ箱粒剤	2	クロチアニジン・イソチアニル粒剤	除草剤	ガンガン1キロ粒剤	2	フェノキサスルホン・ピリミスルファン	本田防除	ビームエイトスタークルゾル	2	ジノテフラン、トリシクラゾール		合計	6成分																		
	薬剤名	成分数	備考																																																							
種子消毒	温湯消毒	0	(直播:カルバ—粉粒剤 16、1成分)																																																							
箱施用剤	スタウトダントツ箱粒剤	2	クロチアニジン・イソチアニル粒剤																																																							
除草剤	ガンガン1キロ粒剤	2	フェノキサスルホン・ピリミスルファン																																																							
本田防除	ビームエイトスタークルゾル	2	ジノテフラン、トリシクラゾール																																																							
	合計	6成分																																																								
栽培 管理	4月の管理 ●基肥 ・鶏糞は4月末~田植え2週間前頃に散布する ・果穂里スペシャルは田植の2週間前頃に散布する ・基肥としてカリを施用する場合は、珪酸加里を20kg/10aを田植前に施用する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◎食味値向上のために、施肥量を加減しましょう。 </div>		5月の管理 ●育苗 ・温湯消毒は60℃/10分で行う ・1箱当り150g(催芽粃)播きで健苗を育成する ●施肥 ・LPS100は入水前に散布しすぎ込んでおく(又は田植え同時) ●病虫害防除 ・移植前に箱施薬を実施 ●植え付け ・植付け本数は株当り3~5本、株数は㎡当り18株(坪60株)を目安とし、深植えを避ける ●水管理 ・浅水管理で分げつの確保に努める。			6月の管理 ●水管理 ・田植え後1ヶ月を目安に間断灌水を開始 ・茎数が株当り18~20本程度になったら中干しを行う(強度の中干しは避ける) ●縞葉枯病(ヒメビウソカ)発生時 ●追肥 ・追肥としてカリを施用する場合(基肥に珪酸加里を施用しない場合は、塩化加里10kg/10aまたは珪酸加里20kg/10aを出穂40日前頃(7月上旬)に施用する。			7月の管理 ●水管理 ・中干し後、再度間断灌水を継続し、出穂20日前(7月28日頃)から湛水管理を行う。 ●病虫害防除 ・カメムシ被害軽減のため、出穂2週間前(8月4日~8日頃)を目安に畦畔雑草を刈る。 ※穂ばらみ期(出穂前10日)を目安に、いもち、紋枯、ウンカ類の防除を実施(成分回数に留意)。 ●コブノメイガ多発時			8月の管理 ●水管理 ・出穂20日後までは湛水管理を継続する ●病虫害防除 ・穂揃い期(8月中旬頃)に穂いもち、カメムシ、ウンカ類の基幹防除を実施する。 ●カメムシ多発時			9月の管理 ●水管理 ・落水は収穫前10日頃を目安とする。 ●収穫 ・通常、出穂期から40日で収穫期となる。刈り遅れとならないよう、青味粃が10~15%程度になったら収穫を開始する			10月以降の管理 ●収穫後の作業 ・収穫後は、土壌改良資材や堆肥を投入し、年内にほ場を耕起する ・排水不良田では、冬期間の滞水を防止するため、ほ場周囲に明きよを設ける																																								

特別栽培米ひとめぼれ「米づくり農家の自信作」栽培暦(H29)

月	4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月																																																																		
旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬																																																																		
生育 ステージ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> おいしい自信作 目標値 ◎食味値80点 以上 </div>		播種期			移植期 6/1~6/10			有効分げつ終止期 最高分げつ期			出穂期 8/5~15			成熟期																																																																					
水管理			※除草剤散布3~4日間は、湛水を保ち、7日間は止水する。			浅水			間断灌水			中干し			湛水管理(ため込まない)			間断灌水			落水 (収穫前7~10日)																																																															
施肥	施肥体系 (化学肥料由来の窒素成分は4kg/10a以下になるように)																																																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">元肥 パターン</th> <th rowspan="2">肥料名</th> <th colspan="3">成分(%)</th> <th rowspan="2">施用量 (kg/10a)</th> <th rowspan="2">化学肥料 由来 N成分量</th> <th rowspan="2">有機質肥 料由来 N成分量</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P</th> <th>K</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">①</td> <td>発酵鶏糞</td> <td>3.53</td> <td>2.80</td> <td>3.34</td> <td>200</td> <td></td> <td>3.53</td> </tr> <tr> <td>又は、果穂里 プラス LPS100</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>40~60</td> <td></td> <td>2.8~4.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">②</td> <td>発酵鶏糞</td> <td>3.53</td> <td>2.80</td> <td>3.34</td> <td>200</td> <td></td> <td>3.53</td> </tr> <tr> <td>苗箱まかせ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.56~3.2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		元肥 パターン	肥料名	成分(%)			施用量 (kg/10a)	化学肥料 由来 N成分量	有機質肥 料由来 N成分量	N	P	K	①	発酵鶏糞	3.53	2.80	3.34	200		3.53	又は、果穂里 プラス LPS100	7	3	1	40~60		2.8~4.2	②	発酵鶏糞	3.53	2.80	3.34	200		3.53	苗箱まかせ					2.56~3.2		防除計画 (移植栽培・無人ヘリの場合) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>薬剤名</th> <th>成分数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種子消毒</td> <td>温湯消毒</td> <td>0</td> <td>(直播:カルパ—粉粒剤 16、1成分)</td> </tr> <tr> <td>箱施用剤</td> <td>スタウトダントツ箱粒剤</td> <td>2 クロチアニシン・イソチアニル粒剤</td> <td>直播はアトマイヤー水和剤(1成分)</td> </tr> <tr> <td>除草剤</td> <td>バッチリ1キロ粒剤</td> <td>3 イマゾスルフロン・ピラクロニル・フロモブチド粒剤</td> <td>移植、直播登録あり</td> </tr> <tr> <td>本田防除</td> <td>ビームエイトスタークルゾル</td> <td>2 シノテフラン、トリシクラゾール</td> <td>穂揃期</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>7成分</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>																			薬剤名	成分数	備考	種子消毒	温湯消毒	0	(直播:カルパ—粉粒剤 16、1成分)	箱施用剤	スタウトダントツ箱粒剤	2 クロチアニシン・イソチアニル粒剤	直播はアトマイヤー水和剤(1成分)	除草剤	バッチリ1キロ粒剤	3 イマゾスルフロン・ピラクロニル・フロモブチド粒剤	移植、直播登録あり	本田防除	ビームエイトスタークルゾル	2 シノテフラン、トリシクラゾール	穂揃期		合計	7成分
元肥 パターン	肥料名	成分(%)			施用量 (kg/10a)	化学肥料 由来 N成分量	有機質肥 料由来 N成分量																																																																													
		N	P	K																																																																																
①	発酵鶏糞	3.53	2.80	3.34	200		3.53																																																																													
	又は、果穂里 プラス LPS100	7	3	1	40~60		2.8~4.2																																																																													
②	発酵鶏糞	3.53	2.80	3.34	200		3.53																																																																													
	苗箱まかせ					2.56~3.2																																																																														
	薬剤名	成分数	備考																																																																																	
種子消毒	温湯消毒	0	(直播:カルパ—粉粒剤 16、1成分)																																																																																	
箱施用剤	スタウトダントツ箱粒剤	2 クロチアニシン・イソチアニル粒剤	直播はアトマイヤー水和剤(1成分)																																																																																	
除草剤	バッチリ1キロ粒剤	3 イマゾスルフロン・ピラクロニル・フロモブチド粒剤	移植、直播登録あり																																																																																	
本田防除	ビームエイトスタークルゾル	2 シノテフラン、トリシクラゾール	穂揃期																																																																																	
	合計	7成分																																																																																		
栽培 管理	4月の管理		5月の管理			6月の管理			7月の管理			8月の管理			9月の管理			10月以降の管理																																																																		
	<ul style="list-style-type: none"> ●基肥 ・鶏糞は4月末~田植え2週間前頃に散布する ・果穂里は田植えの2週間前頃に散布する ・基肥としてカリを施用する場合は、珪酸加里を20kg/10aを田植え前に施用する 		<ul style="list-style-type: none"> ●育苗 ・温湯消毒は60℃/10分で行う ・1箱当り150g(催芽粃)播きで健苗を育成する ●施肥 ・LPS100は入水前に散布しすぎ込んでおく(又は田植え同時) ●病虫害防除 ・移植前に箱施薬を実施 ●植え付け ・植え付け本数は株当り3~5本、株数は㎡当り18株(坪60株)を目安とし、深植えを避ける ●水管理 ・浅水管理で分げつの確保に努める。 			<ul style="list-style-type: none"> ●水管理 ・田植え後1ヶ月を目安に間断灌水を開始 ・茎数が株当り18~20本程度になったら中干しを行う(強度の中干しは避ける) ●縞葉枯病(ヒメヒウカ)発生時 ●追肥 ・追肥としてカリを施用する場合(基肥に珪酸加里を施用しない場合は、塩化加里10kg/10aまたは珪酸加里20kg/10aを出穂40日前頃(6月下旬)に施用する。 			<ul style="list-style-type: none"> ●水管理 ・中干し後、再度間断灌水を継続し、出穂20日前(7月15日頃)から湛水管理を行う。 ●病虫害防除 ・カメムシ被害軽減のため、出穂2週間前(7月20日~25日頃)を目安に畦畔雑草を刈る。 ※穂ばらみ期(出穂前10日)を目安に、いもち、紋枯、ウンカ類の防除を実施(成分回数に留意)。 ●コブノメイガ多発時 			<ul style="list-style-type: none"> ●水管理 ・出穂20日後までは湛水管理を継続する ・落水は収穫前10日頃を目安とする。 ●病虫害防除 ・穂揃い期(8月中旬頃)に穂いもち、カメムシ、ウンカ類の基幹防除を実施する。 ●カメムシ多発時 			<ul style="list-style-type: none"> ●収穫 ・通常、出穂期から35~40日で収穫期となる。刈り遅れとならないよう、青味粃が10~15%程度になったら収穫を開始する 			<ul style="list-style-type: none"> ●収穫後の作業 ・収穫後は、土壌改良資材や堆肥を投入し、年内にほ場を耕起する ・排水不良田では、冬期間の滞水を防止するため、ほ場周囲に明きよを設ける 																																																																		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ◎食味値向上のために、施肥量を加減しましょう。 </div>																																																																																			
	※発酵鶏糞は(肥効率 N:50%,P:80%,K:90%)で仮定しています。成分割合が大きく異なる製品を使う場合は事前にご相談ください。 ※「発酵鶏糞または果穂里」+化成肥料とし、化学肥料由来の窒素成分は4kg以下となるよう注意する。苗箱まかせの場合、一箱当たりの窒素施用量を調整して施用する(LPコート N400)																																																																																			
	※農薬成分は11成分以内になるように注意する。(特別栽培米基準) ※その他補完防除等を行う場合は、JAによく相談すること																																																																																			